

『ウェットタイヤの進化で 3 番手スタートだったが、難しいコンディションの中 8 位フィニッシュ（入賞）』



シリーズ名：2024 AUTOBACS SUPER GT シリーズ

大会名：2024 AUTOBACS SUPER GT Rd.6 「SUGO GT 300 km RACE」

レース距離：1 周 3.586km×84 周

9 月 21 日（土） 天候：雨 コース状況：ウェット

公式予選：GT500 クラス 3 位（雨天の為、予選は中止。公式練習のタイムを予選結果として採用）

前戦の鈴鹿が台風により 12 月に延期となったため、今回の第 6 戦が 2024 年シーズンの後半戦の始まりとなる。

今回から予選方式が一部変更となり、予選で使えるタイヤの本数が増え、Q1 と Q2 でタイヤをニュータイヤでアタックできるため、予選が更に激しい戦いとなることだろうと思われたが 19 号車に撮っては追い風だと思った。

午前中に行われた公式練習は、朝から雨が降り続き、開始時はウェット宣言が出された上、気温 17 度、路面温度 20 度と想定より低い状態からスタートとなった。

練習走行開始直後から霧が出てくる最悪なコンディションの中、午後からの予選を見据え、各チームがハイペースでタイ



ムを出す様子が見受けられるが、混走時間帯では、300 クラスの車両が相次いでコースアウト・クラッシュが起り、4 回もの赤旗中断の中、19 号車は阪口選手が終始走行し 21 周を周回してのタイムは 13 周目に出した 1'25.320 がベストラップとなり、全体の 3 番手タイムを出す。

その後の 300 クラス占有走行時間帯で再び雨がひどくなり、300 クラスの車両のクラッシュもあり、2 度の赤旗が出ると、そのまま練習走行が終了となり、それは 500 クラス占有走行時間帯もキャンセルとなった。

午後から開催された予選は、先に開始される GT300 クラスの Q1 が当初デレイとなり天候の回復を待つこととなったが、何度か繰り返されたデレイの後、結果的に天候の回復が見込まれないため、15 時 9 分に公式予選のキャンセルが決まり、公式練習のタイムが予選結果として採用されることとなった。

19 号車は明日の決勝を 3 番手、2 列目からのスタートとなります。

明日も雨が予想され、ウェットタイヤでのレースとなると思われるが、19 号車は表彰台のトップを目指し爆走します。皆様の応援、よろしくお願い致します。



9月22日(日)

天候：曇り コース状況：ウェット→ドライ

決勝：GT500 クラス 8位

前回の鈴鹿が台風による延期となり、このラウンドが後半戦の最初の戦いとなる。

昨日から降り続く雨は、決勝日も午前中から降り続き、併催された FIA-F4 は早々に赤旗終了してしまう程となり、SUPER GT のタイムスケジュールが後ろにずれ込む中、午後 1 時には雨が降りしき中、ウォームアップ走行が行われ、19 号車は 1 : 29.723 と 5 番手のタイムを出して終了した。

スタートドライバーは国本選手。気温 20 度、路面温度 24 度となったスタート直前までに雨が止む方向となり、コースも濡れているが、スタート時には 500 クラスは全車レインタイヤをセレクト。レーススタートも SC 先導による周回を 3 周行い、4 周目からスタートが切られた。スタート直後 14 号車をパスして 2 番手に上がる。とはいえ、路面はまだ乾ききっておらず、前の 38 号車を追いかける展開となる。しかし、後ろはピッターと 12 号車が張り付いてきて、程なくパスされ、さらに 36 号車にも抜かれ、5 周目には 64 号車にパスされて 5 番手に、6 周目には 14 号車にパスされて 6 番手に落ちてしまう。7 周目に 17、3 号車にパスされ、8 位に。GT300 のスリックタイヤ装着車両に引っ掛かり 19 号車は 12 周目には 13 番手まで落ちてしまった。14 周目には 12 位に戻るが、その前後に 8 位争いが勃発し、19 号車を含め 14 番手までの 7 台の闘いとなり、毎周回で順位が目まぐるしく変わる中、19 号車は後方から 8 位争いの集団に懸命に食らいついている。

25 周目に 300 クラスのクラッシュにより 26 周目に SC が入ることとなった。レースの 1/3 を経過していないため (26 周目での 19 号車は 12 位) 500 クラスは全車コースに残り、周回を重ねていくこととなる。

32 周目にレースが再開となり、2 台ピットに入ったが、19 号車は 11 位のまま、まだピットに入らずに周回を重ねていく。各車ピットに入る中、19 号車はスリックタイヤに切り替えるタイミングを図りつつ、周回を重ねていく。40 周目に 8 号車にパスされて 10 位に。

42 周目に 300 クラスの車両がクラッシュし、コース上に残ったため、SC が出ると見た各車一斉にピットに飛び込む。19 号車も入るとフルサービスを行い、タイヤをスリックにし、ドライバーを阪口選手にチェンジしコース復帰。その最中に 300 クラスの車両撤去のために、FCY が出され、後に 44 周目に二度目の SC に切り替わった。19 号車は SC 切り替わり時の 44 周目の順位は暫定 12 位。

50 周目に SC が外れてレース再開。ピットを終了した段階で 19 号車は 11 位。58 周目に 24 号車がピットに入り、



19号車は10位に。61周目に39号車がピットに入り9位に、62周目にドライブスルーペナルティで14号車がピットに向かうと、19号車は8位に上がる。

なかなかペースが上がらず、8位を単独走行している阪口選手は、残り6周でドライブスルーペナルティにより19号車の後ろに順位が下がった17号車と7位争いをするも、ラスト2周でパスされ、そのまま8位でチェッカーを受けることとなりました。

レースは、ポールポジションの38号車が序盤は2位以下を離しにかかるが、徐々に追いついてきた2位以下との差が縮まり、15周目に36号車がパスしてトップに躍り出ると、2位以下を引き離しにかかる。1度目のSC後に、2位以下の4番手までの3台が1位の36号車を猛追し、37周目に37号車がトップを奪取すると、2度目のSC後も、後続を20秒以上引き離してトップでチェッカー。以下、38-12-36-100-3-17-19-14-16-39-23-24-64-8となりました。



決勝コメント【坂東監督】



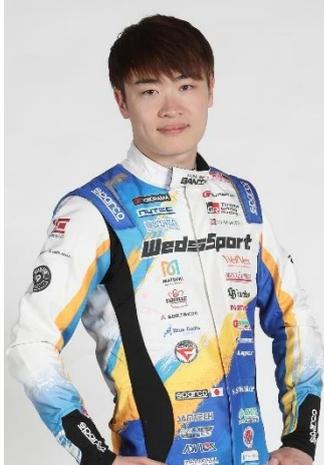
『鈴鹿レースが延期になりましたが幸い 19 号車にはテストがありました。このレースからマーキングタイヤのルールも変更になり、得意の菅生とと思ってたんですが、予報は大雨でした。どのような形で予選が行われるか？わからないまま？フリー走行がスタートしてフリー走行の結果がスタート順位になる事を想定してエンジニアがランプランを考えてくれました。結果、ウェットタイヤで 3 番手獲得。ウェット路面で新しいパターンで横浜ゴムの良さをリザルトに残すことが出来て良かったです。決勝はデレイでスタート時間が遅れ、雨は止み、しかし路面は乾かずウェットタイヤでのスタート。温まりは良く 2 番手まで上がったのですがその後は苦戦しながらも前の車についていき、ドライタイヤに交換。その後コンディションとタイヤがマッチしなく辛い状況でしたが、ドライバーの頑張りで 8 位。低温側のタイヤを持ち込みしなかった僕の判断ミスです。収穫は沢山ありました。また沢山の進化も感じられました。後半戦の横浜ゴムに期待してください。雨の中、沢山の応援ありがとうございました。』



【国本選手】

『ポイント獲得することができホッとしています。ファーストステントを走りましたがコンディションがウェットからドライに変わっていく難しい状況下で上手く対応し切れず順位を落としてしまいました。上位でレースするにはまだ課題は多いですが、以前よりもチーム力、ウェットタイヤパフォーマンスは向上を感じることが出来たレースでした。』

【阪口選手】



『週末通してウェットコンディションでの走行が多くありました。これまでは苦手とするコンディションでしたが、雨量が合えばかなり良い感触でアタックすることができました。レースでは変わる雨量に対応することができず、難しいレースでした。私が担当した2ステントではドライコンディションでしたが狙いの路面温度とは外れてしまいペースを上げられませんでした。その中でもピット作業の良さ、タイミングの良さに助けられて8位でゴールすることができました。ペースは厳しいものでしたがポイントを獲得できたのはポジティブなのでまた次戦頑張ります。』

SUPERGT

<https://supergt.net/pages>

BANDO

<http://www.bandohracing.com/>

